

4．各報告書の詳細

すべての分析結果報告書の詳細について記載します。

分析結果報告書確認表示用の画面はA4用紙印刷を考慮し、小さめにレイアウトされています。

詳細では、個々の入力方法の詳細について記しています。

4 - 1．分析結果報告書[1] 1．模擬排ガス吸収液試料1 (SOx)

分析結果報告書[1]の入力方法の詳細を記します。

表 4-1.1 模擬排ガス吸収液試料 (分析結果報告書 [1])

分析結果	数値 (半角) 入力。測定回数 3 回の結果を記入。単位 : mg / l。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 分析結果 (検出下限値以上) ・ 検出下限未満での検出下限の値 (注) 検出下限 : 例えば (イソカマ トグラフ) 空試験を行ってそれらの測定 値の標準偏差の3倍相当として求める。 	<p>検出下限値以上では、<u>分析結果を有効数字 3 桁</u> (有効数字 4 桁目を四捨五入) で記入。「検出下限値未満での検出下限の値」欄は記入しない。</p> <p>検出下限値未満では、<u>検出下限値を有効数字 1 桁</u> で記入。「分析結果」欄は記入しない。</p> <p>分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果 (検出下限値以上) または検出下限未満での検出下限の値」は必須項目です。該当する値を入力して下さい。というエラーメッセージが表示される。</p>
分析開始月日 分析終了月日	<p>コンボボックスより選択。</p> <p>分析開始日は分析 (前処理操作を含む) を開始した日。分析終了日は定量操作を完了した日。</p>
分析方法	<p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、<u>全角文字</u> で具体的な分析方法を記入する。</p> <p>分析方法は必須項目。確定する際に、値の選択が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析方法」は必須項目です。該当する値を選択して下さい。というエラーメッセージが表示される。</p>
分析条件	<p><u>3 回測定のうち、1 回目の分析条件を記入する。</u></p> <p>(1 回目の分析条件を記入する)</p>
滴定法 試料の分取量 試料の滴定量 空試験の滴定量	<p>数値 (半角) 入力。単位 : ml。</p> <p>数値 (半角) 入力。単位 : ml。</p> <p>数値 (半角) 入力。単位 : ml。</p>

<p>イオンクロマトグラフ法</p> <p>試料の希釈（希釈倍率）</p> <p>注入量</p> <p>試料の指示値</p> <p>空試験の指示値</p> <p>検量線の作成 作成点数</p> <p>作成範囲 最小濃度</p> <p>最大濃度</p> <p>最高濃度の指示値</p> <p>装置</p>	<p>コンボボックスより選択。希釈倍率は数値（半角）入力。</p> <p>数値（半角）入力。単位：μl。</p> <p>数値（半角）入力。「空試験の指示値」、「検量線作成の最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。</p> <p>数値（半角）入力。整数</p> <p>数値（半角）入力。装置に注入する試料中のイオンの濃度(mg / l)を記入。「ゼロ(0)」は含めない。</p> <p>数値（半角）入力。単位：最小濃度と同じ。</p> <p>数値（半角）入力。「試料の指示値」、「空試験の指示値」と同じ単位で記入。</p> <p>コンボボックスより選択。</p>
<p>比濁法（光散乱法）</p> <p>試料の分取量</p> <p>吸収セルの光路長</p> <p>試料の吸光度</p> <p>空試験の吸光度</p> <p>検量線の作成 作成点数</p> <p>作成範囲 最小量</p> <p>最大量</p> <p>最高濃度の吸光度</p>	<p>数値（半角）入力。単位：ml。</p> <p>数値（半角）入力。単位：mm。</p> <p>数値（半角）入力。</p> <p>数値（半角）入力。</p> <p>数値（半角）入力。整数</p> <p>数値（半角）入力。吸光度測定する溶液中のイオンの量（mg）を記入。「ゼロ(0)」は含めない。</p> <p>数値（半角）入力。単位：最小量と同じ。</p> <p>数値（半角）入力。</p>
<p>分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点</p>	<p>全角文字入力。「。」「、」「数字」「記号」等も全角文字入力とし、<u>150文字以内</u>で簡潔に記入する。</p>
<p>計算式</p>	<p>全角文字入力。「。」「、」「数字」「記号」等も全角文字入力とし、<u>150文字以内</u>で記入する。原則として、分析条件に記載されている用語を用いて記載する。</p> <p>例（SO_x、アルセナド 法）</p> $\text{分析結果 (mg / l)} = (\text{滴定値ml} - \text{空試験滴定値ml}) \times 0.320 \div \text{試料量 (ml)} \times 1000$

4 - 2 . 分析結果報告書[2] 1 . 模擬排ガス吸収液試料 2 (NO_x)

分析結果報告書[2]の入力方法の詳細を記します。

表 4-2.1 模擬排ガス吸収液試料 (分析結果報告書 [2])

分析結果	数値 (半角) 入力。測定回数 3 回の結果を記入。単位 : mg / l。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 分析結果 (検出下限値以上) ・ 検出下限未満での検出下限の値 (注) 検出下限 : 例えば (イカリ法) 空試験を行ってそれらの測定値の標準偏差の3倍相当として求める。 	<p>検出下限値以上では、分析結果を有効数字 3 桁 (有効数字 4 桁目を四捨五入) で記入。「検出下限値未満での検出下限の値」欄は記入しない。</p> <p>検出下限値未満では、検出下限値を有効数字 1 桁で記入。「分析結果」欄は記入しない。</p> <p>分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果 (検出下限値以上) または検出下限未満での検出下限の値」は必須項目です。該当する値を入力して下さい。というエラーメッセージが表示される。</p>
分析開始月日 分析終了月日	<p>コンボボックスより選択。</p> <p>分析開始日は分析 (前処理操作を含む) を開始した日。分析終了日は定量操作を完了した日。</p>
分析方法	<p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的な分析方法を記入する。</p> <p>分析方法は必須項目。確定する際に、値の選択が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析方法」は必須項目です。該当する値を選択して下さい。というエラーメッセージが表示される。</p>
分析条件	3 回測定のうち、1 回目の分析条件を記入する。
吸光光度法 試料の分取量 試料の滴定量 空試験の滴定量	<p>(1 回目の分析条件を記入する)</p> <p>数値 (半角) 入力。単位 : ml。</p> <p>数値 (半角) 入力。単位 : ml。</p> <p>数値 (半角) 入力。単位 : ml。</p>

<p>イオンクロマトグラフ法</p> <p>試料の希釈（希釈倍率）</p> <p>注入量</p> <p>試料の指示値</p> <p>空試験の指示値</p> <p>検量線の作成 作成点数</p> <p>作成範囲 最小濃度</p> <p>最大濃度</p> <p>最高濃度の指示値</p> <p>装置</p>	<p>コンボボックスより選択。希釈倍率は数値（半角）入力。</p> <p>数値（半角）入力。単位：μl。</p> <p>数値（半角）入力。「空試験の指示値」、「検量線作成の最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。</p> <p>数値（半角）入力。整数</p> <p>数値（半角）入力。装置に注入する試料中のイオンの濃度(mg / l)を記入。「ゼロ(0)」は含めない。</p> <p>数値（半角）入力。単位：最小濃度と同じ。</p> <p>数値（半角）入力。「試料の指示値」、「空試験の指示値」と同じ単位で記入。</p> <p>コンボボックスより選択。</p>
<p>分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点</p>	<p>全角文字入力。「。」「、」「数字」「記号」等も全角文字入力とし、<u>150文字以内</u>で簡潔に記入する。</p>
<p>計算式</p>	<p>全角文字入力。「。」「、」「数字」「記号」等も全角文字入力とし、<u>150文字以内</u>で記入する。原則として、分析条件に記載されている用語を用いて記載する。</p> <p>（模擬排ガス吸収液試料と同じ）</p>

4 - 3 . 分析結果報告書[3] 2 . 模擬大気試料 (1.ベンゼン 2.トリクロエレン 3.テトラクロエレン 4.ジクロメタン)

分析結果報告書[3]の入力方法の詳細を記します。

表 4-3.1 模擬大気試料 (分析結果報告書 [3])

分析結果	数値 (半角) 入力。単位 : $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 分析結果 (検出下限値以上) ・ 検出下限未満での検出下限の値 	<p>検出下限値以上では、分析結果を有効数字3桁 (有効数字4桁目を四捨五入) で記入。2回以上の測定を行った場合には、平均値を記入。「検出下限未満での検出下限の値」欄は記入しない。</p> <p>検出下限値未満では、検出下限値を有効数字1桁で記入。「分析結果」欄は記入しない。</p> <p>分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果 (検出下限値以上) または検出下限未満での検出下限の値」は必須項目です。該当する値を入力して下さい。というエラーメッセージが表示される。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 標準偏差 	<p>3回以上の測定を行った場合には、次式で計算した結果を有効数字3桁で記入。</p>
	$\text{標準偏差} = \sqrt{\frac{\sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})^2}{n - 1}}$ <p>ただし、x_i は分析結果 \bar{x} は平均値 n は測定回数</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 測定回数 	<p>分析用試料の量り取りからGC/MS等の測定までの一連の操作を行った回数 (併行測定の回数) を記入。</p> <p>(注) 検出下限 : 例えば、空試験を行ってそれらの測定値の標準偏差の3倍相当として求める。</p>

分析開始月日 分析終了月日	コンボボックスより選択（模擬排ガス吸収液試料と同じ）。
分析方法	コンボボックスより選択（模擬排ガス吸収液試料と同じ）。 分析方法は必須項目。確定する際に、値の選択が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析方法」は必須項目です。該当する値を選択して下さい。というエラーメッセージが表示される。
分析条件	（ <u>2回以上測定した場合には、1回目の分析条件を記入する</u> ）
分析時の温度 分析時の大気圧	数値（半角）入力。分析結果（濃度）の算出に用いた温度、圧力を記入。
試料量 濃縮部 除湿部 濃縮部の加熱温度 トラップ管の加熱温度 パージガス 試料の希釈操作 希釈倍率	数値（半角）入力。：m l。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合にんどは、全角文字で具体的に記入する。 コンボボックスより選択。 数値（半角）入力。単位： 。 数値（半角）入力。単位： 。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入する。 コンボボックスより選択。 数値（半角）入力。
G C 型式 M S 型式 装置型式 イオン検出法	すべての項目とも、コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
カラム 型式 内径 長さ 膜厚	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。 数値（半角）入力。単位：mm。 数値（半角）入力。単位：m。 数値（半角）入力。単位：μm。
カラム昇温条件	温度（ ） 温度保持（分） 昇温速度（ /分）とも数値（半角）入力。 5回以上の昇温を行った場合には、最終の温度と温度保持を記入し、更に昇温回数を記入。

キャリアーガス条件 種類 流量	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。 数値（半角）入力。単位：ml/分。
注入 注入口温度 注入方式	数値（半角）入力。単位：。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
定量方法 方法 内標準物質の種類 内標準物質の添加量	コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。 数値（半角）入力。濃縮部中の量（ng）で記入。
標準原ガス 区分 購入：メーカー名	コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
質量数 検出下限	数値（半角）入力。定量に用いた質量数1つを記入。 数値（半角）入力。試料ガス中の濃度（ $\mu\text{g}/\text{m}^3$ ）として記入。
検量線の作成 作成点数 作成範囲 最小量 最大量 最高濃度の指示値	数値（半角）入力。整数。 数値（半角）入力。GCに注入する物質の量(ng)を記入。「ゼロ(0)」は含めない。 数値（半角）入力。単位：最小量と同じ。 数値（半角）入力。「試料の指示値」、「空試験の指示値」と同じ単位で記入。
試料 指示値 空試験 指示値	数値（半角）入力。「試料の指示値」、「空試験の指示値」とも、「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。
分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点	全角文字入力。「。」「,」「数字」「記号」等も全角文字入力とし、 <u>150文字以内</u> で簡潔に記入する（模擬排ガス吸収液試料と同じ）。
計算式	全角文字入力。「。」「,」「数字」「記号」等も全角文字入力とし、 <u>150文字以内</u> で記入する。（模擬排ガス吸収液試料と同じ）。

4 - 4 . 分析結果報告書[4] 3 . 底質試料 (フタル酸ジ・エチル)

分析結果報告書[4]の入力方法の詳細を記します。

表 4-4.1 底質試料 (分析結果報告書 [4])

分析結果 ・ 分析結果 (検出下限値以上) ・ 検出下限未満での検出下限の値 ・ 標準偏差 ・ 測定回数	数値 (半角) 入力 (模擬大気試料と同じ。ただし、分析結果の単位は $\mu\text{g/g}$)。 分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果 (検出下限値以上) または検出下限未満での検出下限の値」は必須項目です。該当する値を入力して下さい。というエラーメッセージが表示される。
分析開始月日 分析終了月日	コンボボックスより選択 (模擬排ガス吸収液試料と同じ)。
分析方法	コンボボックスより選択 (模擬排ガス吸収液試料と同じ)。 分析方法は必須項目。確定する際に、値の選択が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析方法」は必須項目です。該当する値を選択して下さい。というエラーメッセージが表示される。
分析条件	(2 回以上測定した場合には、1 回目の分析条件を記入する)
試料量 溶媒抽出 方法 溶媒の種類 溶媒の使用量 抽出時間 抽出回数	数値 (半角) 入力。単位: g。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。 数値 (半角) 入力。1 回当たりの使用量。単位: ml。 数値 (半角) 入力。1 回当たりの時間。単位: 分。 数値 (半角) 入力。単位: 回。
クリーンアップ方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
濃縮の方法 窒素吹き付け ロータリーエバポレーター その他の方法	実施した場合には、チェックボックスにチェック。 実施した場合には、チェックボックスにチェック。 その他の方法を実施した場合には、全角文字で具体的に記入。
定容量 (測定用試料液量)	数値 (半角) 入力。単位: ml。

GC型式 MS型式 装置型式 イオン検出法	すべての項目とも、コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
カラム 型式 内径 長さ 膜厚	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。 数値（半角）入力。単位：mm。 数値（半角）入力。単位：m。 数値（半角）入力。単位：μm。
カラム昇温条件	温度（ ） 温度保持（分） 昇温速度（ /分）とも数値（半角）入力。 5回以上の昇温を行った場合には、最終の温度と温度保持を記入し、更に昇温回数を記入。
キャリアーガス条件 種類 流量	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。 数値（半角）入力。単位：ml/分。
注入 量 注入口温度 注入方式	数値（半角）入力。GCへの注入量(μl)を記入。 数値（半角）入力。単位：。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
定量方法 方法 内標準物質の種類 内標準物質の添加量	コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。 数値（半角）入力。GC/MS測定用試料液中の量（ng）で記入。
標準原液 区分 購入：メーカー名	コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
量数 検出下限	数値（半角）入力。定量に用いた質量数1つを記入。 数値（半角）入力。試料中の濃度（μg/g）として記入。

<p>検量線の作成 作成点数</p> <p>作成範囲 最小量</p> <p>最大量</p> <p>最高濃度の指示値</p>	<p>数値（半角）入力。整数。</p> <p>数値（半角）入力。GCへの注入量(n g)を記入。「ゼロ(0)」は含めない。</p> <p>数値（半角）入力。単位：最小量と同じ。</p> <p>数値（半角）入力。「試料の指示値」、「空試験の指示値」と同じ単位で記入。</p>
<p>試料 指示値</p> <p>空試験 指示値</p>	<p>数値（半角）入力。「試料の指示値」、「空試験の指示値」とも、「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。</p>
<p>サロゲートの使用 有無</p> <p>サロゲート：種類</p> <p>添加量</p>	<p>コンボボックスより選択。</p> <p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。</p> <p>数値（半角）入力。試料中への添加量（n g）として記入。</p>
<p>分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点</p>	<p>全角文字入力。「。」「、」「数字」「記号」等も全角文字入力とし、<u>150文字以内</u>で簡潔に記入する（模擬排ガス吸収液試料と同じ）。</p>
<p>計算式</p>	<p>全角文字入力。「。」「、」「数字」「記号」等も全角文字入力とし、<u>150文字以内</u>で記入する。（模擬排ガス吸収液試料と同じ）。</p>

4 - 5 . 分析結果報告書[5] 4 . 土壌試料 1 (鉛)

分析結果報告書[5]の入力方法の詳細を記します。

表 4-5.1 土壌試料 1 (鉛)(分析結果報告書 [5])

分析結果 ・ 分析結果 (検出下限値以上) ・ 検出下限未満での検出下限の値 ・ 標準偏差 ・ 測定回数	数値 (半角) 入力 (模擬大気試料と同じ。ただし、分析結果の単位は <u>m g / k g</u>) 分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果 (検出下限値以上) または検出下限未満での検出下限の値」は必須項目です。該当する値を入力して下さい。というエラーメッセージが表示される。
分析開始月日 分析終了月日	コンボボックスより選択 (模擬排ガス吸収液試料と同じ)。
分析方法	コンボボックスより選択 (模擬排ガス吸収液試料と同じ)。 分析方法は必須項目。確定する際に、値の選択が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析方法」は必須項目です。該当する値を選択して下さい。というエラーメッセージが表示される。
分析条件	(<u>2 回以上測定した場合には、1 回目の分析条件を記入する</u>)
溶出操作 試料量 溶媒量 振とう容 器 の 容 積 振とう方向	数値 (半角) 入力。単位 : g。 数値 (半角) 入力。溶出に用いた 1 mol/l 塩酸の量 (m l)。 数値 (半角) 入力。単位 : m l。 コンボボックスより選択。縦方向、横方向は次のとおりとする。 ・ 縦方向 : 容器 (ポリエチレン製容器等) を寝かせて置き水平方向に振とう又は容器を立てて置き鉛直方向に振とう ・ 横方向 : 容器を寝かせて置き鉛直方向に振とう又は容器を立てて置き水平方向に振とう
媒抽出 実施の有無 試験溶液の分取量 溶媒の種類 抽出回数 溶媒の使用量 最終の定容量 最終溶液の液性	コンボボックスより選択。 数値 (半角) 入力。単位 : m l。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。 数値 (半角) 入力。 単位 : 回。数値 (半角) 入力。1 回当たりの使用量。単位 : m l。 数値 (半角) 入力。単位 : m l。 コンボボックスより選択。

<p>ルーム原子吸光法 試験溶液の希釈 希釈：希釈倍率</p>	<p>コンボボックスより選択。 数値（半角）入力。</p>
<p>電気加熱原子吸光法 注入量 注入の方法 原子化の方法 行「ファイア」の添加</p>	<p>数値（半角）入力。単位：μl。 コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。 コンボボックスより選択。</p>
<p>原子吸光分析装置 ハックラウント補正 測定波長</p>	<p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。 数値（半角）入力。単位：nm。</p>
<p>ICP発光分光分析法 試験溶液の希釈 希釈：希釈倍率 装置 型式 ハックラウント補正 超音波ワライガ-の使用 測定時間 測定波長</p>	<p>コンボボックスより選択。 数値（半角）入力。 コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。 コンボボックスより選択。 数値（半角）入力。単位：秒。 数値（半角）入力。単位：nm。</p>
<p>ICP質量分析法 使用した水 積分時間 質量数</p>	<p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。 数値（半角）入力。単位：秒。 数値（半角）入力。定量に用いた質量数1つを記入。</p>
<p>定量方法 方法 内標準物質の種類</p>	<p>コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。</p>

<p>検量線の作成 作成点数</p> <p>作成範囲 最小濃度</p> <p>最大濃度</p> <p>最高濃度の指示値</p>	<p>数値（半角）入力。整数。</p> <p>数値（半角）入力。分析装置で測定する溶液中の濃度(mg / l)を記入。 「ゼロ(0)」は含めない。</p> <p>数値（半角）入力。単位：最小濃度と同じ。</p> <p>数値（半角）入力。「試料の指示値」、「空試験の指示値」と同じ単位で記入。</p>
<p>試料 指示値</p> <p>空試験 指示値</p>	<p>数値（半角）入力。「試料の指示値」、「空試験の指示値」とも、「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。</p>
<p>分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点</p>	<p>全角文字入力。「。」「、」「数字」「記号」等も全角文字入力とし、<u>150文字以内</u>で簡潔に記入する（模擬排ガス吸収液試料と同じ）。</p>
<p>計算式</p>	<p>全角文字入力。「。」「、」「数字」「記号」等も全角文字入力とし、<u>150文字以内</u>で記入する。（模擬排ガス吸収液試料と同じ）。</p>

4 - 6 . 分析結果報告書[6] 4 . 土壤試料 2 (ダイオキシン類及びコプラナー PCB)

分析結果報告書[6]の入力方法の詳細を記します。

表 4-6.1 土壤試料 (ダイオキシン類及びコプラナー PCB) (分析結果報告書 [6])

<ul style="list-style-type: none"> ・測定回数 	<p>分析用試料の量り取りからGC/MS等の測定までの一連の操作を行った回数（併行測定の数）を記入。</p>
<hr style="border-top: 1px dashed black;"/>	
<p>分析結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分析結果（定量下限値以上） ・分析結果（検出下限～定量下限） ・検出下限未満での検出下限の値 ・標準偏差 	<p>数値（半角）入力。単位：pg/g。</p> <p>定量下限値以上では、有効数字2桁（有効数字3桁目を四捨五入）で記入。2回以上の測定を行った場合には、平均値を記入。「検出下限～定量下限」及び「検出下限未満での検出下限の値」欄は記入しない。</p> <p>検出下限以上定量下限値未満では、有効数字2桁（有効数字3桁目を四捨五入）で記入。2回以上の測定を行った場合には、平均値を記入。「定量下限値以上」及び「検出下限未満での検出下限の値」欄は記入しない。</p> <p>検出下限値未満では、検出下限値を有効数字1桁で記入。「定量下限値以上」及び「検出下限～定量下限」欄は記入しない。</p> <p>3回以上の測定を行った場合には、有効数字2桁で記入。標準偏差の算出方法は、模擬大気試料と同じ。</p> <p>分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果（定量下限値以上）または分析結果（検出下限～定量下限）または検出下限未満での検出下限の値」は必須項目です。該当する値を入力して下さい。というエラーメッセージが表示される。</p> <p>(注) 検出下限、定量下限：試料における検出下限、定量下限をいう。試料における検出下限及び定量下限については、「別途送付している「実施要領」の推奨方法4.2の(4)」を参照する。</p>
<p>分析条件</p>	<p>(2回以上測定した場合には、1回目の分析条件を記入する)</p> <p>(報告書[6]と[7]で同じ内容の部分は、分析結果報告書[6]にすべてを記入し、報告書[7]は記入しなくてもよい)</p>
<p>抽出</p> <p>試料のはかり取り量</p>	<p>数値（半角）入力。単位：g。</p>

抽出	方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
	溶媒	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
	抽出時間	数値（半角）入力。単位：時間。
	溶媒量	数値（半角）入力。単位：m l。
	ろ紙の種類	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
	抽出液量	数値（半角）入力。粗抽出液の量（m l）を記入。
	抽出液の分取 有無	コンボボックスより選択。
	分取量	「分取する」を選んだ場合には、分取量（m l）を記入。数値（半角）入力。
	濃縮器の種類	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
	濃縮後の定容量	数値（半角）入力。単位：m l。
	クリーンアップ スpike 添加	コンボボックスより選択。
	添加箇所	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
クリーンアップ	硫酸処理 シガレット 多層シガレット	すべての項目とも、コンボボックスより選択。
GC/MS分析用試料液の調製方法	硫黄分除去の処理 その他の処理 転用溶媒	すべての項目とも、コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
GC/MS分析用試料液	ダイオキシン類用 ポリナ-PCB用	数値（半角）入力。単位：μ l。
GC / MS	対応物質 ダイオキシン類 ポリナ-PCB	（対応物質ごとにGC / MS 1 ~ 5に記入する） チェックボックスにチェック。分析対象とした塩素化物を選択。
GC	型式	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。

カラム 型式	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
内径	数値（半角）入力。単位：mm。
長さ	数値（半角）入力。単位：m。
膜厚	数値（半角）入力。単位：μm。
昇温条件	温度（ ）、温度保持（分）、昇温速度（ /分）とも数値（半角）入力。 5回以上の昇温を行った場合には、最終の温度と温度保持を記入し、更に昇温回数を記入。
注入 量	数値（半角）入力。単位：GCへの注入量(μl)を記入。
注入口温度	数値（半角）入力。単位： 。
注入方式	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
キャリアーガス条件 流量	数値（半角）入力。単位：ml/分。
MS型式 型式	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
測定時の分解能	コンボボックスより選択。
イオン化 方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。
電圧	コンボボックスより選択。
電流	コンボボックスより選択。
イオン源温度	数値（半角）入力。単位： 。
検量線の作成	
ダイクシ類 作成点数	数値（半角）入力。整数。
作成範囲 最小濃度	数値（半角）入力。GCに注入する標準液の濃度(ng/l)を記入。「ゼロ(0)」は含めず、異性体で異なる場合には最小値を記入。
最大濃度	数値（半角）入力。単位：最小濃度と同じ。異性体で異なる場合には、最大値を記入。
繰り返し数	数値（半角）入力。整数。
コラ-PCB 作成点数	ダイクシ類と同様に記入。
作成範囲 最小濃度	
最大濃度	
繰り返し数	

標準物質(液)のイオン類製造メーカー 開封後の月数 コブラー-PCB製造メーカー 開封後の月数	製造メーカーは、コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、全角文字で具体的に記入。 開封後の月数は、数値(半角)入力。単位:月。
装置安定性 感度変動 保持時間変動	数値(半角)入力。単位:%。 数値(半角)入力。単位:%。
内標準物質の添加量と回収率	使用した内標準物質に該当する欄に記入。「その他」の内標準物質を使用した場合には、具体的に記入。
クリーンアップスパイク 添加量	数値(半角)入力。添加した内標準物質の量(n g)を記入。
クリーンアップスパイク 回収率	数値(半角)入力。添加した内標準物質の回収率(%)を記入。
シリジングスパイク 添加量	数値(半角)入力。添加した内標準物質の量(n g)を記入。
空試験値及び相対感度係数 空試験値(操作ブランク)	数値(半角)入力。試料中の濃度(p g / g)に換算した値で記入(分析結果と同じ単位とする)。空試験値が検出されない場合には記入しない(空欄とする)。
相対感度係数(RRFcs) 相対感度係数(RRFss)	数値(半角)入力。2つのモニターイオン(質量数)における平均値を記入。
検出下限値	数値(半角)入力。 <u>有効数字1桁</u> で記入。
装置の検出下限	GC/MSで検出できる最小量(p g)を記入。
測定方法(試料における) 検出下限 試料測定時の検出下限 (注)検出下限:「推奨方法4.2の(4)」を参照する	検出できる試料中の最小濃度(p g / g)を記入(分析結果と同じ単位とする)。
測定質量数	各塩素化合物毎に2つを選択。 質量数の表記は、記載しているマニュアル等により異なっていることもあり、そのことを考慮して選択する(選択肢の質量数と0.01以下で異なっても同じイオンを示す場合には、その質量数を選択する)。なお、「その他」を選んだ場合には、数値(半角)で具体的に記入する。

4 - 7 . 分析結果報告書[7] 4 . 土壌試料 3 (ダイキソ類及びポリナ- PCB)

分析報告書[7]は表題を除き分析報告書[6]と同様です。